

セネガル通信

～日常や活動を岡山県の皆さんにお届けします～

JICA海外協力隊
2025-1次隊
小学校教育
長尾有花
2026/02/19

市と県に表敬訪問

派遣前訓練が終わり、セネガルへ派遣されるまでの間に市や県に表敬訪問を行い、市長や県の方々から応援の言葉をいただきました。この時にいただいた災害用の懐中電灯は、停電が起きたたびに使わせていただいており、大活躍しています。ありがとうございました。



セネガルに到着！

【オリエンテーションと手続き】



赴任してしばらくは首都にあるJICA事務所でオリエンテーションを受けたり、銀行口座の開設や長期滞在のための手続きを行いました。

時差ボケや疲れのせいか、ホテルへ帰ると、気付かぬうちに寝てしまい、そのまま朝を迎える生活が続いていました。

任地へ赴任する直前には教育省や日本大使館などに表敬訪問へ行きました。

事務所のみなさんや先輩方が「困ったことはない？」と声をかけてくださいり、色々なことを教えてくださいました。

【語学訓練】

最初の1週間はフランス語、その後の3週間はウォロフ語（セネガルで話されている現地語）を計90時間学習します。

フランス語で“学ぶ”新しい言語はとても難しく感じ、先生が板書する筆記体を読み取るのにも一苦労でした。



↑挨拶の国・セネガルでは出会った人とたくさん挨拶を交わします。これはほんの一部で、体調や家族のこと、仕事のことなどをお互いに質問し合います。

びっくりしたこと

セネガルに来て日本との違いに驚いたことはたくさんあります。例えば、馬や牛などが道路を歩いていること、頭の上に大きな荷物を乗せて器用に歩いていることです。

ご飯の時間が日本と異なるのも驚きました。（一般的に朝食は10時～12時、昼食は14時～16時、夕食は22時～）ご飯は大皿をみんなで囲んで食べます。

今は、到着して半年が経ったので日常になりつつありますが、来た頃の新鮮な気持ちを忘れずに毎日を過ごしていきたいです。



私の任地「カオラック」

カオラックは、車で首都から南東へ約4時間の場所にあります。首都で暮らす現地の方や協力隊の先輩からは、「活気があって日本の大阪のような場所」「車や人の行き来が多い」「蚊が多く、暑い」と聞いていました。

任地に着いてみると、噂通り。首都では同期と基本一緒に行動していましたが、一人での生活が始まります。生活や活動、語学面での不安などたくさんありました。

赴任して最初の数か月は、とにかく任地のことを知ろうとたくさん歩きました。目が合った人には挨拶をし、私の存在を知ってもらうようにしました。

雨季には雷雨とともに、停電・断水が一日に何度も起ります。電気や水に困らない日本の生活が少し恋しくなることもありましたが、ここでしかできない貴重な経験だと思っています。

今では、ニワトリや羊の声で目が覚め、夜は近所の人の楽しそうな話し声を聴きながら眠るという生活に慣れてきました。たくさんの顔なじみの人ができ、居心地が良いと感じられる場所や人も見つけることができています。



次回、学校の様子についてお伝えします！